



寺報

2022年（令和4年）

No. 318

5月号

Zenkyo-ji monthly
Communications Paper
En [えん]

縁

高名なお坊さん(その5)

空也上人

平安時代中期の僧侶。

南無阿弥陀仏と唱えて極楽往生を願う阿弥陀信仰をいちはやく広めた。山林で修行をしながら各地を遍歴し、橋を架けたり井戸を掘るなどの整備や行倒れた人を弔うなど社会事業を行い、庶民から有力者まで幅広い信仰を集めた。

10世紀半ばには、京都東山の地に十一面観音像を本尊とした六波羅蜜寺の前身となる西光寺を開いた。

写真は、六波羅蜜寺の開祖である空也上人の像である。空也上人が「南無阿弥陀仏」を唱えると、その一音一音（南・無・阿・弥・陀・仏）が阿弥陀仏になつたという伝説を彫刻化している。彫刻自体は、鎌倉時代前期、運慶の四男・康勝の作である。



左手には鹿の角のついた杖を持ち、布教のために履きこんだ草履で大地をしっかりと踏みしめ、痩せてはいるが民衆と共に生活した空也上人の力強さを表現している。その写実的な表現からは空也の死後250年ほど経ってから制作されたとは思えない生命力が感じられる。

天禄3年（972）、70歳にてその生涯を閉じた。

戦死した者に申し訳ない」とも。
私が住職になつた時、周りはおじいちゃん世代ばかりで、戦争体験も含めて、有り難い話を沢山聞かせて貰つてきました。

そういえば、ここ最近、戦争体験の話を全く聞きません。戦争体験者がいませんからね。帳場を世話して下さつていた、おじいちゃんの戦争体験の話、今になつて、また聞きたくなつてしましました。

私が住職を継いだ二十八年前は、戦争を体験された方が、まだ多くいらっしゃいました。本堂で法要時、帳場の世話を下さつていた方が、まさに戦争体験者。その方が、戦争の悲惨な状況を、時々話して下さいました。そして最後に、「戦争は絶対いけん！」と、目に涙を薄づら浮かべながら言われます。その一言が、とても印象的で。その方、戦後は学校の先生をされました。ある時、私が、「学校の授業で戦争の話をされたのですか？」と聞きますと、全く話さなかつたと。家族にも、あまり話をすることが無かつたと言わっていました。「友が目の前で死んでいったけんの」と、ボソッと言わされたこともありました。「長いこと生かしてもらうた、

住職レター

私が住職を継いだ二十八年前は、戦争を体験された方が、まだ多くいらっしゃいました。本堂で法要時、帳場の世話を下さつていた方が、まさに戦争体験者。その方が、戦争の悲惨な状況を、時々話して下さいました。そして最後に、「戦争は絶対いけん！」と、目に涙を薄づら浮かべながら言われます。その一言が、とても印象的で。その方、戦後は学校の先生をされました。ある時、私が、「学校の授業で戦争の話をされたのですか？」と聞きますと、全く話さなかつたと。家族にも、あまり話をすることが無かつたと言わっていました。「友が目の前で死んでいたけんの」と、ボソッと言わされたこともありました。「長いこと生かしてもらうた、

心が痛みます。安穏がおとずれますよう、祈り続けます」と書きましたが、益々悲惨な状況に陥つてゐるようです。祈りは届きませんでした。ニュースをする度、ニュースをする度、